

Hello! FUJISEI

No.203

老後生活資金の準備はされているのでしょうか？

頼みとする公的年金ですが、それだけでは十分ではなく、しかも病気などの思わぬ出費に対する準備も必要です。“優雅な年金生活”などはとても考えられなく、資金準備について真剣に考える方も多いようです。

総務省のまとめた「家計調査報告（家計収支編）—平成25年平均速報結果の概況—」から老後生活の収支状況をみてみましょう。

●可処分所得は実質減少

総世帯のうち高齢無職世帯（世帯主が60歳以上の無職世帯）の実収入は180,808円で、前年に比べ実質0.6%の減少でした。内訳をみると、公的年金などの社会保障給付は、実収入の9割近くを占める158,400円で、前年に比べ実質0.1%減少。また、直接税、社会保険料などの非消費支出は23,844円で、前年に比べ名目2.8%の増加となりました。その結果、可処分所得は156,964円で、実質1.1%の減少でした。

●消費支出は実質増加

消費支出は210,660円

老後生活での急な出費は大丈夫？

可処分所得を上回る消費支出

高齢無職世帯

円で、前年に比べ実質1.9%の増加でした。内訳をみると、交際費などの「その他の支出」、住居、食料など実質増加となっています。

消費支出の費目別構成比をみると、住居、交際費などの「その他の消費支出」などの割合が上昇し、教養娯楽などの割合が低下しています。総世帯と比べると、「その他の消費支出」、保健医療、食料、光熱・水道などの割合が高くなっています。

なお、エンゲル係数は25.0%と、前年と同水準でした。

消費支出が可処分所得を上回る高

齢無職世帯の平均消費性向は134.2%で、前年に比べ3.9ポイント上昇しました。消費支出に対する可処分所得の不足分は53,696円で、前年に比べ5,905円増加しました。不足分は金融資産の取り崩しなどで賅われています。

なお、世帯主が60歳以上の世帯に占める無職世帯の割合は67.0%で、前年に比べ0.8ポイント低下しました。勤労者世帯の割合は15.2%で、0.3ポイントの低下でした。

高齢無職世帯の家計収支（総世帯）

資料：総務省「家計調査報告（家計収支編）—平成25年平均速報結果の概況—」より

